

2022.12.08. 木曜礼拝 神は歩みと立ち止まることを導かれる

エレミヤ書 42~44 章

JD ファラグ牧師

天のお父さま、本当にありがとうございます。あなたは賛美されるにふさわしいお方です。主よ、あなただけが 賛美にふさわしいお方です。私たちが集うことができ、礼拝を捧げ、御名を称えることができる この時を感謝します。主よ、このメッセージと共にいてください。私たちの心を開いて、メッセージを受け取れるようにしてください。もう一度、この場所とこの時間に感謝します。イエスの御名によって、アーメン。アーメン、アーメン。わお…！今夜はにぎやかですね。一拍手ー

それでは、こんばんは、ようこそ。来て下さり嬉しいです。オンラインの皆さんも、参加して下さり嬉しいです。始める前に、多くの皆さんから、今年は日曜日であるクリスマスについて 質問を受けています。そこで、日曜日の朝の礼拝の代わりに、クリスマスイブの礼拝を行うことに決めました。一拍手ー お～良かったです。ありがとうございます。文句がある人は他の教会に メールしてみてくださいと言おうと思ったのですが… 分かりませんが。ー (笑) ー ですから、私たちは決めました。クリスマスの朝は皆 自分の家族と過ごしたいので、土曜日の夜、5時から始めます。クリスマスイブ礼拝を行います。メモしておくとも良いかもしれませんね。そして日曜日の元旦には 2つの礼拝があります。1月1日日曜日の朝は マック牧師が教えることとなります。

では、始めましょう。さらに3章ですよ？先週、さらに3章進むと お伝えしましたよ。先週私たちは、3章と聖餐式を やり遂げたんですから。家に帰るのは そんなに遅くなかったですよ？ もちろん、パジャマや歯ブラシを持参した人が どれだけいるのか、カメラで見っていましたよ。

いえ、必要ありませんよ。では祈りましょう。今夜、神が私たちのために 用意されていることが楽しみです。天のお父さま、本当にありがとうございます。主よ、私たちが落ち着かせ、心を静めさせてください。特にこの時期は、いつも忙しく、 残念ながら無用なストレスさえ 感じてしまいます。

主よ、私たちの心を静めてください、そうすれば、今夜、あなたに全神経を 集中させることができます。主よ、ただ私たちの心を静めてください。私たちは、この時間を、互いに交わり、礼拝するだけでなく、御言葉の中で あなたと共に過ごす時間にしたいと 願っているからです。ですから、主よ、私たちは今夜目の前にある この 3つの章であなたが私たちに 何をされるのか、本当に楽しみにしています。大きな期待を持って、私たちの信仰の 創造者であり完成者であるあなたが、 私たちに働きかけ、私たちの人生に 語りかけてくださるのを待ち望みます。主よ、この時を本当に感謝します。あなたを本当に愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

それでは。繰り返しますが、3章取り組むことに決めたのは、この3章はもちろん相伴うのですが、神は私たちの歩みを導くと同時に、 私たちの歩みを止めることも 導かれることが語られているからです。今夜の3つの章は、私たちが神の民として、自分の人生だけでなく、人生の方向についても 神の御心に どう応えるべきかについて、本当に必要なことを思い出させてくれるものです。さて、これから見るものですが、先を読んでいる方はもうお分かりですね。非常に興味深いです。これから見るのは、エジプトへの 逃亡と潜伏に関して、神の導きを求めるユダの民の姿です。これはバビロンの王、ネブカドネツアルが 任命した総督である ゲダルヤが殺害された後のことです。先週登場したイシュマエルという男が、ゲダルヤの家で、彼の食卓で、その文化圏では 考えられないような方法で彼を殺害します。

イシュマエルがゲダルヤを殺害したので、バビロンの王が何をするのか、ユダ全土が恐れています。

さて、本題に入る前に、41章の終わりをざっと見ておくと良いでしょう。今夜の内容を理解する上で、非常に重要なことだからです。彼らはすでにエジプトに向かっています。彼らはエジプトに向かう途中、ベツレヘムにほど近いこの町にいます。エジプトに行けばバビロンより安全だと考えて、すでに逃げることを、命がけで逃げることを決めているのです。そして今、神は預言者エレミヤを通して、彼らがエジプトに行くのを阻止するために、あらゆる手段を講じようとしています。ネタバレになりますが、先を読んでいる方のために、彼らは耳を傾けません。神は、いつも私たちの歩みを導くという思いで、何度、私たちの道を指し示してくださったことでしょうか。私たちが先に進まないように、赤信号を出す必要があると判断されることもしばしばあります。神はいつも私たちを導いてくださいます。それが質疑ではありません。神はいつも祈りに応えてくださいます。それが質疑ではありません。質疑は、私たちが、自分が祈った祈りの答えを聞きたいかどうかです。彼らは…彼らはこれには関わりたくありません。彼らはこの件とは何の関係もありません。彼らは聞きたくありません。間もなく見ていきますが、彼らはその答えを聞きたくないのです。もう心に決めています。だから、すでに向かっているのです。彼らはエジプトへ向かっているのですが、神が彼らを止めようとされます。神は私たちの祈りに、3つの方法のいずれかで答えてくださいます。神は私たちに赤信号を与えられ、「止まれ」 黄信号を与えられ、「減速、止まる準備をして慎重に進む」もちろん、私たちにとって、黄色信号の意味は違いますよね？ほら、正直になりましょう。黄色信号は、「急げ、スピードを上げろ、赤になる前に交差点を通り抜けろ」という意味です。しかし、黄色は減速して慎重に進み、停止する準備をすることを意味します。スピードを上げてはいけません。私たちはそうしますね？しかし時には、神が「行きなさい、やりなさい」と青信号を出されることもあります。私たちの歩みを示されるのはもちろんのこと、立ち止まることも示されます。この名言が好きです。長年にわたって私の心に残っており、長年にわたって非常に役立っています。こんな感じです。あなたが祈り、神に尋ね、神に導きを求めるとき、ここでユダがそうするのを見ますが、時に、神はこう言われます。「まだです。タイミングが違います。ゆっくりしなさい。」時には、神の返答は、「あなたは正しくない。成長しなさい。」時には、「要求が正しくない。ダメです。」という返答です。しかし、時には神は「タイミングが正しく、あなたは正しく、要求が正しい。行きなさい。」と言ってくれることもあります。まあ、これはここで話をする事例ではありませんが、一（笑）一 こんな導入はどうですか？出来る限り、最善を尽くしているんですよ。ただ優しくしてください。皆さんはそうですよね。それでは、このことを踏まえて始めましょう。準備はいいですか？42章1節です。

—エレミヤ 42:1—

軍のすべての高官たち、カレアハの子 ヨハナン、ホシャヤの子イザンヤ、…

これらの発音については、これが私の知る限り最善のものです。だから、それを受け入れるかどうかは、皆さん次第です。

…および身分の低い者も高い者も みな近づいて来て、

—エレミヤ 42:2—

預言者エレミヤに言った。「どうか、私たちの願いを受け入れてください。私たちのため、この残りの者すべてのために、"あなたの神"、主に祈ってください。…

おお… 主はあなたの神ではないのですか？ 興味深いですね。…ご覧のとおり、多くの者の中から わずかに私たちだけが残ったのです。

ーエレミヤ 42:3ー

あなたの神、主が、私たちの歩むべき道と、なすべきことを 私たちに告げてくださいますように。」
言い換えると、彼らは今、エレミヤのところに来て、こう言います。「エレミヤよ、バビロンの王を恐れて エジプトに逃げるという決断について、私たちの代わりに主に尋ねてくれるか？」

ーエレミヤ 42:4ー

そこで、預言者エレミヤは彼らに言った。「承知しました。見よ。私は、あなたがたのことばのとおり、"あなたがたの神"、主に祈り、…

面白いです。誰の神ですか？ 私たちの神？あなたがたの神？「いいえ、主は私の神ではなく、あなたがたの神です。」 そうですか。

…私は、あなたがたのことばのとおり、あなたがたの神、主に祈り、…

(ここを注意して聞いてください。)

…主があなたがたにお答えになることはみな、あなたがたに告げましょう。あなたがたには何事も隠しません。」

別の言い方をすれば、エレミヤはこう言っています。「分かりました、祈ります。しかし、私は縮こまることも、ためらうこともしません。なぜなら、私がある決断について 主に求めるとき、あなたがたは私が受け取る 答えを気に入るとは思えないからです。」エレミヤが正確に正しく見抜いているのは、この決断が恐れ、人間への恐れから 生まれているということです。

あなたや私が信仰ではなく 恐れを核とした決断をするときはいつでも、安心してください、それは主ではないということです。なぜなら、神はそうように働かれないからです。神は私たちに恐れを霊を与えておられません。この決断は、これは生死にかかわる決断です。彼らは生きるために逃げています。彼らは今、非常にバビロン王を恐れています。ネブカドネツアルの男、ゲダルヤが殺されてしまったからです。だから彼らは今、ネブカドネツアルが 戻って来ることを恐れていて、ネブカドネツアルは去って行ったのに、戻って来て、すべての人を、この街を 滅ぼすのではないかと恐れています。ですから、これはすべて、恐れから来ています。エレミヤの応答は、いくつかの理由で、彼らが不誠実で、不正直でさえあることを 見抜いていることを物語っています。

説明します。私たちもいつもこうするので、彼らにあまり厳しくなり過ぎないように。何を言っているのか、まもなくここで分かると思います。彼らはすでに計画を立てています。今はただ、神に認めてもらいたいだけなのです。ほら、彼らはもう心を決めています。すでに決断しています。今、彼らはエレミヤにそのことを 祈ってもらい、神の祝福と承認の印が 得られるかどうかを確かめたいのです。

私たちがそうしますね。はい、いいですよ、自分のことを話しましょう。私はいまだに、そうします。「おお、神よ、このことを祝福してください。」「いいえ、ああ、どうやらあなたはすでに このことを計画しているようだね。今、それを祝福して欲しいのですか？ もしかしたら、まず初めに わたしのもとに来るべきでした。そして、ただ「主よ、私はどうすべきですか？」と聞くべきでした。どうやら、すでに自分の手で 解決しているようですね。今、あなたはわたしにあなたの計画を 祝福してほしいと思っている。祝福するつもりはありません。実際に、わたしは「ダメです」と言います。あなたがすでに計画していることを 止めようとしています。それは、あなたがたが実行するために、エレミヤにわたしの承認を 求めるように頼んだことです。わたしの承認は得られません。わたしはダメだと言います。意地悪で言っているわけではありません。あなたがたを守るために ダメだと言っているのです。

なぜなら、わたしは初めから終わりを 知っているからです。これが正しいと思うかもしれませんが、そうではありません。わたしはあなたをあなた自身から 守ろうとしています。」この表現を知っていますか？ 聞いたことがあるでしょう。おそらく言ったこともあるはず。「自分が一番の敵」それは真実です。時々、鏡で自分を見る時、最近はあまり好きではないのですが。でも、そうする時、敵と目を合わせていることを知っています。時には、その人に「ダメだ！ダメだ！」と言わなければなりません。やりすぎですか？ — (笑) — 神は彼ら自身から 彼らを守ろうとしておられます。このような決断が恐れからなされた時、必ず起こる愚かさや危険から、彼らを守ろうとしておられます。

—エレミヤ 42:5—

彼らはエレミヤに言った。… (ああ、これは本当に…) …「主が、私たちの中で真実で 確かな証人であられますように。私たちは必ず、あなたの神、主が 私たちのためにあなたを遣わして告げられる ことばのとおり、すべて行います。

—エレミヤ 42:6—

それが良くても悪くても、私たちは、あなたを遣わされた私たちの神、主の御声に 聞き従います。”私たちの神”、主の御声に 聞き従って幸せを得るためです。」

マジ…？ 勘弁してくださいよ。これは…、彼らは…、いや、先走ってしまいました。聖霊によってエレミヤに何が起こったか 説明してもらいましょう。さて7節です。このことについて話し、取り組む必要があります。

—エレミヤ 42:7—

十日たって、主のことばがエレミヤにあった。

待ってください、十日？ ですから、エレミヤが同意し、彼らはエレミヤのところに来て言います。「エレミヤ、どうかこの決断について、私たちのために御座に嘆願してもらえないか」エレミヤは、「ええ、もちろん。祈ります。そうしましょう。それに対して 主がおっしゃることはすべてお伝えします。私は遠慮しません。恐らくあなたがたはその答えが気に入らないでしょう。」すると彼らは、こう答えます。「いいえ、その答えが何であっても、私たちは神の御声に従います。それが喜ばしいことであれ、不快なことであれ、私たちはただ、これが神の御心であることを 確かめたいのです。」エレミヤは「分かりました。」と。そこでエレミヤはどうするのか？ 祈りに行きます。7節には 非常に興味深い詳細が書かれています。「十日たって」これは特に興味深いです。エレミヤが忍耐強く主を求めて 待っていることが分かります。私はこう考えます。エレミヤはすでにここで 何が起きているのかを分かっています。エレミヤは愚かではありません。すでに何が起きているのか 分かっています。あえて言うなら、エレミヤは 神の応答をすでに知っています。私がこう言う理由は、なぜなら、今までのすべてが「降伏しなさい。バビロンに行きなさい。そうすればあなたがたは生きられます。」ということだったからです。「あなたが戦おうとするなら、あなたは死にます。」そして、エルサレムのユダに 残っている人々がいましたが、神は預言者エレミヤを通して、彼らの面倒は見る、彼らに害は及ばないと保証されました。ここで重要なのは、彼らが本当に そう信じていなかったと考えられることです。エジプトにいれば、ユダにいるより安全だと思ったのです。さて、十日間です。非常に長い時間です。この状況が生死にかかわる緊急事態であることを理解する必要があります。私はこう想像します。本文にはありませんが、しかしもし私がそこにいたら、エレミヤに毎日メールしてしまうでしょう。「返事はまだですか？ 返事がありましたか？ 私たちはエジプトに行かないといけないから… だから返事があります。

したか?」「いいえ、まだです。まだありません。」テキストメッセージの「...」(メール返信中の表示)を待ってるんですね。何のことか分かりますね?「彼が返信をしている...!?!」「いや、まだ何もありません。まだ祈っています。」「あ〜...」そして翌日、もう一度 エレミヤにメールを送ります。「エレミヤ、何か返事は...?」「ありません!」十日間です。十日間かかりました。辛抱強く、粘り強く祈ることです。エレミヤがちょっと祈って、「オッケイ、祈ったよ。一度だけ祈りました。」と言ったと思いますか?違います。エレミヤはまだ主に求めています。まだ主に求め続けています。それがエレミヤという人だからです。十日間。8節。

—エレミヤ 42:8—

エレミヤはカレアハの子ヨハナンと、彼とともにいる軍のすべての高官たちと、身分の低い者や高い者をみな呼び寄せて、

—エレミヤ 42:9—

彼らに言った。「あなたがたは自分たちのために嘆願してもらおうと私を主に遣わしたが、そのイスラエルの神、主はこう言われる。

—エレミヤ 42:10—

『“もし”(キーワード)、あなたがたが この地にとどまるのであれば、わたしはあなたがたを建て直し、壊すことなく、あなたがたを植えて、引く抜くことはない。わたしは、あなたがたに下したあのわざわいを悔やんでいるからだ。

—エレミヤ 42:11—

あなたがたが恐れているバビロンの王を 恐れるな。彼を恐れるな—主のことば—。

少し重複しているような気がしませんか?「あなたがたが恐れている その男を恐れてはいけません。あなたがたが恐れている 彼を恐れてはならない。」ここで言いたいことはあるのですが、あまり上手くいってませんね。なぜ、このように記録され、書かれたのでしょうか?これが私の考えです。繰り返しになりますが、彼らは恐怖で身動きが取れず、麻痺している状態です。神は基本的に、彼らの恐れを指摘され、こう仰います。「何も恐れることはありません。あなたがたがバビロン王を 恐れていることは分かっています。ゲダルヤが殺された今、あなたはその影響、報復を恐れています。しかし、彼を恐れてはいけません。」なぜ、バビロン王を 恐れるべきではないのか?主はこう言われます。

—エレミヤ 42:11—

...わたしがあなたがたとともにいて、彼の手からあなたがたを救い、助け出すからだ。

—エレミヤ 42:12—

わたしがあなたがたにあわれみを施すので、彼は(バビロン王のことです)あなたがたをあわれんで、あなたがたを自分たちの土地に帰らせる。』

安堵のため息が漏れるかと思うでしょう。「あ〜、エレミヤ、本当にありがとう。主を称えます。さあ、帰ろう。私たちはエジプトに行きません。それは赤信号です。神は私たちの足を止められました。さあ、ユダに戻りましょう。私たちには神の約束があり、必ず大丈夫だという保証があります。何も恐れることはありません。このバビロンの王、ネブカドネツアルは全能の神の手にある道具であり、私たちに何もすることはできません。神は彼に何もさせないと言われました。みんな、安全です。もう家に帰れますよ。」そうなれば、この章は終わりです、おそらく聖書の学びも早く終わります。しかし、そうなりません。ええ、皆さん、ああ、皆さん、あまりにも長い間 私の教えを聞きすぎてます。一笑

13 節。

—エレミヤ 42:13—

しかし、あなたがたが、『私たちはこの地に とどまらない』と言って、あなたがたの神、主の御声に聞き従わず、

—エレミヤ 42:14—

『いや、エジプトの地に行こう。あそこでは 戦いにあわず、角笛の音も聞かず、パンに飢えることもない。あそこに 私たちは住もう』と言うのであれば、

—エレミヤ 42:15—

今、ユダの残りの者よ、主のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『もし、あなたがたがエジプトに行こうと 決意し、そこに行って寄留するなら、

—エレミヤ 42:16—

あなたがたの恐れている剣が、あのエジプトの地であなたがたを襲い、あなたがたの心配している飢饉が、あのエジプトであなたがたに 追い迫り、あなたがたはそこで死ぬ。

聞いてください、今少し、一時停止するのをお許しください。しかし、これは私を一時停止させます。というのは、ここでエレミヤが こう言い終わったばかりだからです。「さあ主は答えてくださった。これが主の答えです。ユダにとどまりなさい。エジプトに行ってはならない。止まりなさい。行ってはならない。何をするにしても エジプトに行ってはならない。あなたがたがユダにとどまるなら、神があなたがたの面倒を見てくださる。神があなたがたを守られます。恐れることは何もありません。

もしあなたがたがエジプトに行くなら、あなたがたは死にます。」分かった、じゃあ、エジプトに行くのはやめておこう。17 節。ここまで大丈夫ですか？ 皆さん、私について来ていますか？ 私の気持ちがわかりますか？

—エレミヤ 42:17—

エジプトに行つてそこに寄留しようと 決意した者たちはみな、そこで剣と飢饉と疫病で死ぬ。わたしが彼らに下すわざわいから、生き残る者も逃れる者もない。』

あなたはまだエジプトに行きたいですか？ 今は違います。

—エレミヤ 42:18—

まことに、イスラエルの神、万軍の主は こう言われる。『わたしの怒りと憤りが エルサレムの住民の上に注がれたように、…

これは興味深いです。私は線を引きました。…あなたがたがエジプトに行く”とき”、…ああ、これは全知全能の神で、すでにご存じの神です。「もし行くなら」とは言っておられません。「行くとき」です。

「あなたがたがすでに 決意していることを行うとき」

…あなたがたがエジプトに行く時、わたしの憤りはあなたがたの上に注がれ、あなたがたは、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的になり、二度とこの場所を見ることはない。』

ユダのことです。

—エレミヤ 42:19—

ユダの残りの者よ、主はあなたがたに 『エジプトへ行ってはならない』と言われた。…

かなり明確です。明確ですか？ 「ダメ」だと思います。「もしかしたら」でもなく、「待ちなさい」でも、「ゆっくりしなさい」でもありません。「注意して進みなさい」でもありません。違います。

「ダメ、ノー！」 「行ってはならない」ところで、あなたがたの先祖は、神の恵みとあわれみによって、エジプトから脱出したのですよ。戻りたいのですか？ 一体どうしたんですか？ 何が問題なんですか？ 何を考えているんですか？ はい、気分が良くなりました。 そうでもないですが。

—エレミヤ 42:19—

…私が今日あなたがたに証ししたことを、確かに知らなければならない。

これは、主がエレミヤを通して 彼らに伝えて語っておられることです。今度はエレミヤの番です。 20節を聞いてください。

—エレミヤ 42:20—

あなたがたは、自分たちのいのちの 危険を冒して迷い出てしまったからだ。…（※直訳「あなたがたは偽善者だ。」）

さて、私はこのことについて考え、主に問いかけました。このことについて、自分の過去のノートにまで さかのぼって調べてみたんです。エレミヤがユダの人々を軽蔑して宣告する 場面は、実はそれほどありません。つまり、エレミヤは彼らを愛し、彼らを気にかけています。エレミヤは彼らのために嘆き、彼らのゆえに泣いています。でも、何度かあって、今回もそのひとつなんです、エレミヤはこう言います。「あなたたちは私に嘘をついた。」

—エレミヤ 4:20—

あなたがたは私をあなたがたの神、主のもとに遣わして、『私たちのために、私たちの神、主に祈り、すべて私たちの神、主の言われるとおりに、…

エレミヤはこんな口調ではありませんでした。 私ならそうしますが。

…主の言われるとおりに、 私たちに教えてください。…

エレミヤは彼らがエレミヤに言ったことを 繰り返しています。

…私たちは告げられたことを行います』

ええ、そうです。 まあ、悪くはなかったですね。

—エレミヤ 42:21—

私は今日、あなたがたに告げたが、あなたがたは、自分たちの神、主の御声を、すなわち、主がそのために私をあなたがたに 遣わされたすべてのことを 聞こうとしなかった。

—エレミヤ 42:22—

だから今、確かに知らなければならない。あなたがたが、行って寄留したいと 思っているその場所で、 剣や飢饉や疫病で死ぬことを。」

エジプトです。この章の終わりは、何とも やるせない気持ちにさせられます。これから、彼らがエジプトに行くことを 強く望んだ理由の背後にあるものに 迫っていきます。

—エレミヤ 43:1—

エレミヤが民全体に、彼らの神、主のことばを語り終えたときのこと。彼らの神、主はこのすべてのことばをもって、エレミヤを彼らに遣わされたのであるが、

—エレミヤ 43:2—

ホシャヤの子アザルヤ、カレアハの子ヨハナン、…

これを非常に注意深く聞いてください。

…および”高ぶった人たち”はみな、エレミヤにこう告げた。「あなたは偽りを語っている。（あなた

は偽預言者だ) 私たちの神、主は『エジプトに行って そこに寄留してはならない』と言わせる ために、
あなたを遣わされたのではない。

じゃあ、もう1回だけ。私は今エレミヤです。こんな感じです。「神よ…」今まさに稲妻がいくつか落ちたら、本当に本当にかっこよいでしょう。さて、今言ったことを 聖化させてみましょう。これが40年続いています。40年間も。あなたはこうなります。「ちょっと待ってください。失礼ですが、あなたは私が偽預言者だと、偽りの告発をしています。さあ、40年間の預言を すべて振り返ってみましょう。一つでも見つけてください。神の恵みによって神の御言葉を通して、私が言ったとおりに実現しなかったものを ぜひ見つけてください。1つでも。1つ！」私は怒ってませんよ。そう見えるのは分かっていますが、もしかしたら、そうかもしれません。しかも、1つも見つからないどころか、1つ1つが100%だったのです。99.9999999%ではありません。いいえ、100%です。まさに、その通りに。

「失礼ですが、あなたたちここに来なさい。坊や、座りなさい。そのうちの1つについて、話しましょう。私は主の御名によって預言しました。『主はこう言われる、バビロン人が来て、あなたがたをバビロンに 捕虜として連れて行く』と。それは起こりましたか?」「ええ、でも…」「そして今、私はあなたがたに 主の御言葉を預言しています。『主はこう言われる。 エジプトに行ってはならない。』もしかして、エジプトに 行くべきでないと思いますか?

では、「高ぶった人たち」について 話しましょう。典型的ですよ? 傲慢で、自分のことでいっぱい、プライドが高い人たちです。それが偽りの告発の燃料になるのです。私が典型的という意味は、傲慢さは、メッセージが気に入らないと、そのメッセンジャーを攻撃します。その箇所までいくまで待ちましょう。私はただ、エレミヤの気持ちを考えます。本当に同情します。

—エレミヤ 43:3—

ネリヤの子バルクが、… この男を思い出してください。これはエレミヤの書記、エレミヤの友人です。主の御心なら、来週は45章からです。45章はすべて、バルクについてです。バルクもまた、今起きているすべてのことの後に、自分に何が起こるかを恐れています神はこう言われます。「バルク、何も恐れることはありません。」エレミヤが彼のもとに遣わされます。「わたしがあなたの面倒をみます。わたしはあなたを尊重します。あなたはずっと忠実でした。」そこで彼らは今度は、エレミヤの書記であったバルクを、同罪として非難し始めます。彼らはバルクを非難し、偽りの告発をしたのですが、それを見てください。彼らはバルクを非難しています。

—エレミヤ 43:3—

ネリヤの子バルクが、あなたをそそのかして 私たちに逆らわせ、私たちをカルデア人の 手に渡して、私たちを死なせるか、あるいは、私たちをバビロンへ 引いて行かせようとしているのだ。」これは陰謀です。これは企み、邪悪な企みです。 罠です。

—エレミヤ 43:4—

カレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちと、民のすべては、「ユダの地にとどまれ」という 主の御声に聞き従わなかった。

—エレミヤ 43:5—

そして、カレアハの子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、散らされていた 国々からユダの地に住むために 帰っていたユダの残りの者すべて、

—エレミヤ 43:6—

すなわち、親衛隊の長ネブザルアダンが、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに託した すべての者、男、女、子ども、王の娘たち、さらに、(聞いてください) 預言者エレミヤと、ネリヤの子バルクを連れて、ここで何が起きているか分かりますか？ 彼らはバルクやエレミヤを含め、全員を集め、エジプトに力づくで連れて行くんです。

—エレミヤ 43:7—

エジプトの地に行った。(なぜか?) 主の御声に聞き従わなかったのである。こうして、彼らはタフパンヘスまで来た。

—エレミヤ 43:8—

タフパンヘスで、エレミヤに 次のような主のことばがあった。

—エレミヤ 43:9—

「あなたは手に大きな石を取り、それらを、ユダヤ人たちの目の前で、タフパンヘスにあるファラオの宮殿の 入り口にある敷石の漆喰の中に隠して、

—エレミヤ 43:10—

彼らにこう言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ。わたしは 人を遣わし、わたしのしもべ、バビロンの王 ネブカドネツアルを連れて来て、…

待って、何て？ バビロン王ネブカドネツアルは 神のしもべなのですか？ ええ、ネブカドネツアルは神の御手による 民への裁きの道具として、神の目的に仕えています。「わたしはネブカドネツアルに メールを送ります。」 すみません。親族になろうかと…関連性ですね。単語さえ理解してません。しかし、神はネブカドネツアルを、この神のしもべを連れて来られ、

—エレミヤ 43:10—

彼の王座を、わたしが隠した これらの石の上に据える。 彼はその石の上に本営を張る。

どこに？ エジプトに。ちょっと待って。 彼らはネブカドネツアルから逃れるために エジプトに逃げたのに。「分かっています。だから行くなと言ったのです。今度はネブカドネツアルを エジプトへ遣わします。」 そうなのですか？ 「そうです。」まだ大丈夫ですか？ これって、まともじゃないですよ？ さて、これで、神がエレミヤを エレミヤの意志に反してエジプトに連れて 行くことを許された理由がわかります。それは確かに神の御心でした。なぜか？ なぜなら、エレミヤはこれからまた別の 視覚的な預言、今度は石を使った預言を 続ける必要があったからです。思い出してください、ある時は帯で、そして油、今度は石です。これは視覚的な預言です。エレミヤは預言して言います。「ここにある石が見えますか？ どこに置いたか分かりますか？」 ファラオの場所の入り口ですよ。「そうです。」 エレミヤ、なぜそんなことをするのですか？ 「主はこう言われる。あなたがたが 恐れて逃げたネブカドネツアルが来る。そして彼はこの石の上に 王宮の建物を建てます。」 では、良い夜を。意地悪でしたね。まあ。

—エレミヤ 43:11—

彼は来てエジプトの地を討ち、 死に定められた者を死に渡し、 捕囚に定められた者を捕囚にし、 剣に定められた者を剣に渡す。

—エレミヤ 43:12—

わたしがエジプトの神々の神殿に 火をつけるので、彼はそれらを焼き、 神々を奪い去る。彼は、羊飼いが自分の衣をまとうように エジプトの地をまとい、 ここから安らかに去っていく。

—エレミヤ 43:13—

また、エジプトの地にある太陽の神殿の 石柱を砕き、（あなた方が避難している） エジプトの神々の神殿を火で焼く。』

「だから行くなと言ったのです。 エジプトに行ってはならないと。あなたがたは逆らい、行きました。そして今、こうなっているのです。あなたがたがユダに留まったらどうなるかと 恐れていたことが、エジプトでは もっともっとひどいことが起こります。」恐ろしい預言です。44章に入る前に、ここが重点です。エレミヤ書に書かれているように、明確で、生々しい詳細の一つ一つが、その通りに起こりました。歴史的に。神の御言葉以外の情報源について 話しますが、歴史の中で神が仰ったことが まさに仰った通りに起こった年が 記録されています。これも重複しましたが。44章1節です。

—エレミヤ 44:1—

エジプトの地に住むすべてのユダヤ人、 すなわちミクドル、タフパンヘス、メンフィス、およびパテロス地方に住む 者たちに対する、エレミヤにあったことばは、 次のとおりである。

—エレミヤ 44:2—

「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたは、わたしがエルサレムと ユダのすべての町に下した、あのすべてのわざわいを見た。見よ。その町々は今日、 廃墟となって、そこに住む者もない。

—エレミヤ 44:3—

彼らが悪を行って、わたしの怒りを 引き起こしたためだ。彼らは、自分自身も、 あなたがたも、父祖たちも知らなかったほかの 神々のところに行き、犠牲を供えて仕えた。

—エレミヤ 44:4—

それで、わたしはあなたがたに、わたしの しもべであるすべての預言者たちを早くから たびたび遣わして、わたしの憎むこの忌み嫌う べきことを行わないように言ってきたが、

—エレミヤ 44:5—

彼らは聞かず、耳を傾けず、ほかの神々に犠牲を供えることをやめて 悪から立ち返ることはなかった。

—エレミヤ 44:6—

そのため、わたしの憤りと怒りが、 ユダの町々とエルサレムの通りに注がれて 燃え上がり、それらは今日のように 廃墟となって荒れ果てている。』

—エレミヤ 44:7—

今、イスラエルの神、万軍の神、 主はこう言われる。『なぜ、あなたがたは自分自身に 大きなわざわいを招き、ユダの中から 男も女も、幼子も乳飲み子も断って、 残りの者を生かしておかないようにするのか。

—エレミヤ 44:8—

なぜ、あなたがたは、寄留しようとして やって来たエジプトの地でも、ほかの神々に 犠牲を供えて、自分の手のわざによって わたしの怒りを引き起こすのか。こうして、あなたがたは自分たち自身を 断ち滅ぼして、地のすべての国々の中で、 ののしりとそしりの的になろうとしている。

なぜ、なぜ、なぜ？

—エレミヤ 44:9—

あなたがたは、ユダの地とエルサレムの通りで 行った、自分たちの先祖の悪、ユダの王たちの 悪、王妃

(妻)たちの悪、自分たちの悪、自分たちの妻たちの悪を忘れたのか。

どうして2回出て来るんでしょう？ 分かりません。－(笑)－ ちょっと待ってくださいね。ふむ...「自分たちの妻たちの悪...」 ああ、なるほど。 わお...。またもや、重複していますね。「ユダの地とエルサレムの通りで行った悪」疑問符があります。「なぜ忘れたのか？」 答えは10節にあります。

－エレミヤ 44:10－

彼らは今日まで心碎かれず、恐れず、わたしがあなたがたとあなたがたの先祖の前に与えたわたしの律法と掟に歩まなかった。』

－エレミヤ 44:11－

それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『見よ。わたしはあなたがたに顔を向け、わざわいを下し、ユダのすべての民を断ち滅ぼす。』

－エレミヤ 44:12－

わたしは、エジプトの地へ行ってそこに寄留しようとしたユダの残りの者を取り分ける。彼らはみな、エジプトの地で、剣と飢饉に倒れて滅びる。身分の低い者も高い者もみな、剣と飢饉で死に、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的となる。

－エレミヤ 44:13－

わたしは、エルサレムを罰したのと 同じように、エジプトの地に住んでいる者たちを剣と飢饉と疫病で罰する。

ところで、これは『ヨハネの黙示録』の7年の患難に関する預言のほぼそのままです。

－エレミヤ 44:14－

エジプトの地に寄留した後、ユダの地へ帰ろうとしているユダの残りの者には、逃れる者も生き残る者もない。彼らはそこに帰って住みたいと心から望んでいるが、わずかな者以外は帰らない。』

間もなくこのことを見ていきます。しかし、私たちはこのことについても話し、これを読み流すのではなく、取り組む必要があります。皮肉なことですよ？ エジプトにいた人たちは命を救おうとしてそれを失うことになり、バビロンにいた人たちは命を失ってそれを救うことになるという意味で、皮肉中の皮肉です。聞き覚えがありますね？ では、「なぜ？」の質問に答えてみましょう。「なぜ？」の質問とは？ なぜ...？ もちろん修辭的で、神はすでに答えを知っておられますが、しかし、神が止めようされたのに、なぜ彼らはエジプトに行ったのでしょうか？ なぜまだ行くのでしょうか？ エレミヤが「主は言われる、ユダにとどまっていれば、恐れることはない」と告げたばかりなのに、なぜ彼らは従わず、エレミヤに耳を傾けず、エジプトに行くのでしょうか。

答え：彼らが信じなかったからです。

彼らは信じませんでした。それしか答えようがありません。実際、彼らは神がその御言葉を忠実に守られるとは信じませんでした。不信仰です。そして不信仰のために..、このことについてもう少しお話ししますが、彼らは不信仰のために、肉の腕に信頼を置きました。聖書の中でエジプトは、世の型でした。彼らはそこに信頼を置いています。彼らは実際に、全能の神の御手、全能の神の地にいるよりも、この世のエジプトにいる方が安全だと信じているのです。これに関してもう1つ、先に進むにあたり、このことを確認しておきたいと思います。これは決して弁解するものではありませんが、何らかの形で説明できるものです。その論理は、ユダに留まることは、全く理に合わない状況でした。なぜ神はユダに留まるようにと言われるのでしょうか。今、私たちにできる最も論理的なことは、エジプトに行く

ことです。エジプトは安全だから。エジプトでは何の問題もありません。飢えもない、飢饉もない、戦争もない。彼らはそう言っていました。だから、表面上、論理的な領域、自然な領域で、何の問題もなかったのです。その論理に基づいて、この悲惨な、致命的な決断を下したわけです。それは、理にかなっていませんでした。神が仰っていることは全く理にかなっていませんでした。ここで私が言いたいことはこれです。私たちのクリスチャン生活において、最も理にかなっていることを基準に判断すると、すべてのことが大きく狂います。時々... 例を挙げますと、もっと良い例があればいいのですが、彼らはとても世俗的で、2つの欄があります。良い点と悪い点。良い点が悪い点を上回るとか。それで、リストを見ていきます。「もし私がこれをやったら、こういうマイナスがある。」「もしこれをやれば、こういうプラスになる。」それで、リストの最後まで降りてきて、そしてプラスがマイナスを上回れば、良い点が悪い点を上回ります。「よし、じゃあ、それをもとにこの決断をしよう。」神はこう仰います。「好きなようにやりなさい。エジプト側の欄の良い点は数ページ必要です。ユダに留まることの良い点は、実際紙は必要ありません。なぜなら、唯一の良い点は「わたしに従うこと」だから。意味をなさないことは分かっています。それは調和しません。論理的ではありません。しかし、いつから私たちは論理的な判断で物事を決めるようになったのでしょうか。それは「見えること」です。見えるものによって歩むことは信仰の対極にあるものです。彼らは、自分たちが見ているもので、この決断をしています。ユダで見たこと、エジプトで見たことで。「おい、これは間違いないだろう。私たちはエジプトへ行こう。」それが致命的なミスで、彼らの命を奪うことになります。次に進む前に、もう一度、ここから得られるものは、これだと思います。最も理にかなっているかどうかで決断するとき、非常に非常に気を付けてください。なぜなら、まったく理にかなわない決断をすることが、神の御心であることが多いからです。全く理解できないこと。それを信仰と呼びます。それが信仰というものです。ほら、彼らは神への信仰によって信じませんでした。実際、神を信頼していなかったからこそ、自分たちの手で問題を解決したのです。彼らは、自分たちの益を一番に考えてくださる神を信頼しませんでした。彼らは神を信じませんでした。そして、彼らは肉の腕に向かいました。そのために命を落としました。

—エレミヤ 44:15—

そのとき、自分たちの妻がほかの神々に犠牲を供えていることを知っている男たちのすべてと、大集団をなしてそばに立っている女たちすべて、すなわち、エジプトの地とパテロスに住むすべての民は、エレミヤに答えた。

—エレミヤ 44:16—

「あなたが主の名によって私たちに語ったことばに、私たちは従うわけにはいかない。

お～、エレミヤ、今頃、どんな気持ちだったと思いますか？ 彼らはエレミヤをエジプトに強制的に連れて行きました。エレミヤは望んでそこにいるわけではありません。連れて行かれたので、そこにいます。そして、さらに罵声を浴びせられ、偽りの告発をされ、顔に唾を吐きかけられます。興味深くないですか？ 「あなたが主の名によって語ったことばに」では、エレミヤが語ったことは主の名によると認めているのですね。「まあ、ええ、どうでもいいことです。どうせ聞く気はありません。私たちはあなたに聞き従いません。」ここでエレミヤの記述に自分を重ね合わせているのは分かっていますが、エレミヤの心は沈んだと私は信じています。「神がされたことをすべて見たあとでも、あなたがたは私に耳を傾けないのですね。主からの預言のすべてをあなたがたに伝えたのに、あなたがたは聞こうとしません。」彼らのためにエレミヤの心は砕かれことでしょう。彼らは自分が何をしたのか分かって

いないからです。彼らは自分たちの死刑宣告にサインしたのです。彼らは基本的に、預言者エレミヤを通して主に耳を傾けることを拒否し、自らの危険を顧みませんでした。彼らは自ら死刑宣告にサインしたのです。17節、さらに酷くなります。

ーエレミヤ 44:17ー

私たちは、私たちの口から出たことばを みな必ず行って、…”天の女王”に犠牲を供え、…

ここで止めます。何ですか？このフレーズを聞いたことがありますか？天の女王とは、女神イシュタルのことです。今、私は皆さんに復活の日曜日を台無しにしますが、イシュタルはヘブル語で、アシュタルテはギリシャ語です。英語の「イースター」の語源です。では、メリークリスマス。これは豊穡の女神であり、性の女神でした。彼らは天の女王に香をたいていました。私は言わなければなりません。エレミヤのようにためらいません。ローマ・カトリックでは、マリアのことを天の女王と呼んでいるのが興味深いです。神が私の証人であるように、これは悪魔的であり、地獄の穴から出たものであると断言します。以上。それが天の女王です。これは偽りの女神です。神の民が天の女王に香を焚いている？まあ、あまり変わりませんね。

ーエレミヤ 44:17ー

私たちも父祖たちも、私たちの王たちも 首長たちも、ユダの町々やエルサレムの通りで 行っていたように、天の女王に犠牲を供え、 それに注ぎのぶどう酒を注ぎたい。…

どこまで堂々と、図々しいのでしょうか。これ、聞いてください。

…私たちはそのとき、パンに満ち足りて幸せで、わざわざにあわなかった。

ーエレミヤ 44:18ー

だが、天の女王に犠牲を供え、それに注ぎのぶどう酒を注ぐのをやめたときから、私たちは万事に不足し、剣と飢饉に滅ぼされたのだ。」

ーエレミヤ 44:19ー

「私たち女が、天の女王に犠牲を供え、彼女に注ぎのぶどう酒を注ぐとき、女王にかたどった供えのパン菓子を作り、注ぎのぶどう酒を注いだのは、夫をなおざりにしてのことだったでしょうか。」

おお、これは良かった。最初の罪は、男が女を責めました。ここでは、女性が男性を責めています。

「夫の承認を得ていました。だからやったのです。」ちょっと待ってください。何を言っているのか、はっきりさせた方がいいですね。天の女王に香を焚いていたとき、自分の人生がとても順調だったとも言うのですか？そして、あなたが天の女王に香をたくのをやめ、神に従い始めた途端、そのときから、あなたの人生のすべてが悪くなったと？では、少し時間をかけましたが、手短にお話しします。もう一度、投げかけてみましょう。あなたが罪の中にいるとき、罪はあなたの中にあります。それはあなたを腐敗させます。あなたを歪めます。あなたの思考の中に、心の中に入り込みます。上が下、下が上となるように。善が悪であり、悪が善となるように。彼らがそう言ったのは、彼らが本当にそう思っているのか、それともただ言い訳をしているだけだと思いませんか？いや、本当にそう信じているのです。どうしてそんな間違ったことを信じることができるのでしょうか？なぜなら、それが罪がすることだからです。だからこそ、神は…こんな風に言うのを聞いたことがあります。それはとても良く、とても正しいことです。罪は禁じられているから悪いものではありません。罪は悪いことだから禁じられるのです。言い換えると、神は、「優しい十戒」の中でこう言われます。

「～してはならない」なぜか？「なぜなら、わたしはあなたを非常に愛しているからです。あなたが

これを行った日には、あなたを滅ぼすでしょう。わたしはあなたを本当に愛しているので、そんなことがあなたに起きるのを見ると、わたしは、あなたの人生に不必要な 災難や災い、大惨事からあなたを守ろうとしています。」

これが、罪がすることです。考え方をめちゃくちゃにします。

今、あなたは自分の罪を通して 神を見るのではなく、神を通して 自分の罪を見るのです。

だから、変色して、あらゆるものの色合いが 変わってしまいます。

そして、こんなことを言って本当に 信じてしまうほど、あなたは混乱し、倒錯し、墮落してしまうのです。

「そう、私がこの世で罪を犯していた時、

私の人生は素晴らしいものでした。主と共に歩み始めた時、私の人生はひどいものでした。」

お～、そうですか、わお... それでは、

それって、めちゃくちゃですよ？ ーエレミヤ 44:20ー そこでエレミヤは、そのすべての者、すなわち、男たちと女たち、また彼に 口答えした者たち全員に言った。

「あなたがたは一体どうしたのですか?!」 そんなことは言っていません。 21 節。

ーエレミヤ 44:21ー 「ユダの町々やエルサレムの通りで、あなたがたや、あなたがたの先祖、王たち、首長たち、また民衆が犠牲を供えたことを、主が覚え、心に上らせなかったことがあるだろうか。

ーエレミヤ 44:22ー 主は、あなたがたの悪い行い、あなたがたが 行ったあの忌み嫌うべきことのために、もう耐えることが出来ず、…

...それでああなたがたの地は今日のように、住む者もなく、廃墟となり、恐怖のもと、ののしりの的となったのだ。

ーエレミヤ 44:23ー あなたがたが犠牲を供えたため、また、主の前に罪ある者となって、主の御声に聞き従わず、主の律法と掟と証に歩まなかったために、…

...今日のように、あなたがたに このわざわいが起こったのだ。」

自分で招いたことです、罪はそれ自体で償うものです。

ーエレミヤ 44:24ー それからエレミヤは、すべての民、すべての女たちに言った。「エジプトの地にいるすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。

ーエレミヤ 44:25ー 『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたとあなたがたの妻は、自分たちの 口で約束し、自分の手で果たしてきた。…

...あなたがたは、天の女王に犠牲を供えて 彼女に注ぎのぶどう酒を注ぐという誓願を、必ず実行すると 言っている。…

...では、あなたがたの誓願を確かなものとし、あなたがたの誓願を必ず実行せよ。』 これはローマ書 1 章です。

神はただ「わかった」と言われ、彼らをその罪、偶像礼拝に引き渡されます。

「いや、あなたがたはそうするでしょう。わたしに面と向かって、こう言ったところだから。

『私たちのやりたいようにする。私たちは天の女王に香を焚きます。私たちは天の女王に香を焚きま ず。』

分かりました、実際にあなたがたはそうします。」 ーエレミヤ 44:26ー それゆえ、エジプトの地に住むすべての ユダの人々よ、主のことばを聞け。『見よ、わたしはわたしの大いなる 名によって誓うー

主は言われるー。…

…エジプトの全土において、「神である主は生きておられる」と、わたしの名がユダの人々の口に上ることはもうなくなる。

ーエレミヤ 44:27ー 見よ、わたしは彼らを見張っている。 わざわいのためであって、幸いのためではない。エジプトの地にいる すべてのユダの人々は、剣と飢饉によって、 ついには完全に滅び失せる。

ーエレミヤ 44:28ー 剣を逃れる少数の者だけが、エジプトの地からユダの地に帰る。こうして、エジプトの地に来て寄留しているユダの 残りの者たちはみな、わたしのことばの、 どちらが成就するかを知る。

神がこうなさる時が大好きです。 私たちは分かります。

「あなたがたは分かります」と言った方が良いですね。 ーエレミヤ 44:29ー これが、あなたがたへのしるしである ー主のことばー。 わたしはこの場所であなたがたを罰する。…

…あなたがたにわざわいを下すという わたしのことばが必ず成就することを、あなたがたが知るためである。』

そして、最後の 30 節。 ーエレミヤ 44:30ー 主はこう言われる。『見よ。わたしは、エジプトの王ファラオ・ホフラをその敵の手に、そのいのちを狙う者たちの手に渡す。…

…ちょうどユダの王ゼデキヤを、そのいのちを狙っていた彼の敵、バビロンの王 ネブカドネツアルの手に渡したように。』

そして、それが起こりました。

これがまさに起こりました。 ああ、もっと元気な声で 終わりたいものです。

しかし、出来ません。 このように締めくくりたいと思います。 もうすぐ終わります。

皆さんのご忍耐に感謝します。ただ、驚きです。そうですね？ 私たちが今読んだのは、年代順で言えば、エレミヤの最後の預言だと 考えられていることをご存知でしょうか。

主の御心なら、来週 45 章から 52 章まで、この書の残りを取り上げます。

それは…

かなり粗削りですが、それは、周囲の国々への裁きの宣告です。

繰り返しますが、45 章は エレミヤの書記についてです。 私たちが今読んだのは、

これは、文字通り、ページをめくる、角を曲がるということで、今度は 45 章が始まるのですが、これがエレミヤの預言の終わりです。今、最後に記録されたものを読みました。

さて、エレミヤに何が起こったかについて 聖書は沈黙していますが、エレミヤに何が 起こったかについて推測する人たちの側には 沈黙はありません。

聖書が沈黙しているときは、神が その必要があると判断されたように、私も沈黙するのがよいと、いつも教えられてきました。

先週、イシュマエルについて話したのですが、私はどれほど 15 節があって欲しいと 思ったことか。

何が起こったか覚えていますね？ 私のために祈ってくださいね？ あの 1 週間は私にとってつらい 1 週間で、あの男に何が起こったのかを 知りたかったからです。

最期を迎えてコオロギになるところが 見たかったのです。

それ以来、その男から 何の音沙汰もありません。そして、その反対側には、また同じようなことがあると思います。

神はそれを聖書に含める 必要はないと判断されました。

神には理由があられたはずですが、先週のイシュマエルに関してですが、

それは、イシュマエルの霊が こんにちも健在であるからだと信じています。 悪、完全なる悪です。

この男は、完全なる悪です。 そして、それを逆に反転させると、

エレミヤについても、 同じことが言えると思います。 エレミヤの霊もまた、こんにちも健在です。

もし皆さんが私同様なら、 そうだと思いますが、 これで締めくくります。

私は本当に知りたくありません。 この素晴らしい書の完結に近づくとつれ、 エレミヤのことがすごく大好きになりました。

ある人が推測するように、 もしエレミヤが恐ろしい死に方をしたのなら、 私は本当にそのことを知りたくありません。

世間一般のことわざで、「知らぬが仏」と言いますね？ ソロモンは「伝道者の書」で、「知恵が多くなれば悩みも多くなる」と書いています。(1:18)

神は、エレミヤに起こったことの悲しみを、 私たちに与えないように してくださっているのかもしれませんが。

神は憐み深いお方です。 そうですね？ 私のこの最後の まとめ方がお分かりですね？

ええ、そうです。 一拍手ー カポノ、上がって来て下さい。 皆さんお立ちください。 わお、よく言うように、 良いセーブでしたね。

お～、主よ、 エレミヤを感謝します。 またもや大変なものですが、 良いものです。

主よ、私たちは皆、彼らがしたことに対して、 本当に厳しく非難する傾向があることは 分かっています。

しかし、実を言うと、 私たちも同じように陥りやすいです。

これほど大きな規模では ないかもしれませんが、 必ずしも彼らがやったことの レベルには達していませんが、

小さくても、私たちなりに、 私たちもまた、不信仰のうちに、 あなたに信頼しません。

私たちは自分の手で問題を 解決しようとはしますが、それは自分自身に 危険を招くことになります。

主よ、それが今夜のこの章からの 教訓であり、学びなのだと思います。

主よ、私たちがこのことをここに 置き去りにせず、聖霊によってあなただけが お出来になるそのプロセスを 始めてくださるように、ただ祈ります。

主よ、これを私たちの心に祝福し、 私たちの生活に 適用することを始めてください。

私たちの心の中を探ってください。 もしかしたら私たちが生活の中で、 あまりにも危険な状態に近づいていて、

あなたが「ダメだ」と言っておられ、 私たちの歩みを「止まりなさい」「それ以上進んではならない」と示しておられるかもしれません。

主よ、愚かな者が間違えないように、 はっきりと教えてください。

主よ、ありがとうございます。 この章の明確さと強さに感謝します。

私たちにはその強さが必要です。 主よ、感謝します。 イエスの御名によって、アーメン。